

秋の特別企画

江戸城の櫓時計を動かします

ご要望にお応えし、江戸時代に、江戸城で使用されていたと伝えられる櫓時計を特別に動態展示いたします。

江戸城「時計の間」で時を刻み、鐘の音で時を告げた大型一挺天符櫓時計です。

タイミングが合えば、重厚な鐘の音もお聴きになることができます。

この機会に、江戸時代の最高の機械技術書と称される”機巧図彙”、

福沢諭吉が明治の改暦に合わせて執筆した時刻制度・太陽暦に関する啓蒙書”改暦弁”も展示いたします。

10月7日(火)～11月22日(土)

セイコーミュージアム 2階 和時計室 10:00～16:00 / 月曜・祝日・年末年始 休館

入場無料 ◎ご予約。お問い合わせ：セイコーミュージアム TEL：03-3610-6248



【江戸城で使用されたと伝えられる櫓時計】
櫓台は一枚板で、四隅の柱には螺鈿装飾を施し、被覆には葵紋の縫取りがある。
手掛け金具には七宝が使われている。



【国宝・犬山城で使用された大型台時計】
国宝・犬山城（愛知県犬山市）で使われていた”大型一挺天符櫓時計”もご覧頂けます。
※動態展示はしていません。

SEIKO
セイコーミュージアム

細川半蔵頼直著『機巧図彙』

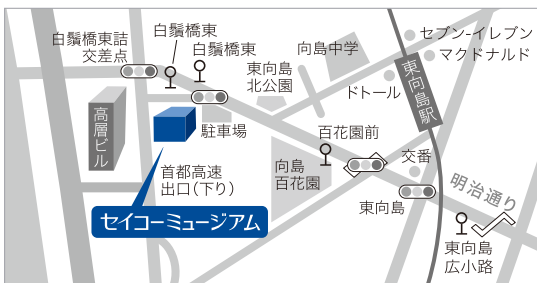
1796(寛政8)年、土佐の細川半蔵頼直著。江戸時代の最高の機械技術書と称され、三巻のうち首巻には和時計の基本的製法が記されている。首巻の最後には『時計は諸機巧の根本なり』と記載され、それを基として、上下二巻では機械仕掛の玩具の製作法が図解されている。



福沢諭吉著『改暦弁』



1873(明治6)年。福沢諭吉が著した改暦の解説書。この年、旧暦(太陰太陽暦)から新暦(太陽暦)へ切り替えられた。1872年12月3日を1873年1月1日とし、暦と共に時刻制度も不定時法から定時法(1時間が60分、1日24時間)に変更。本文末尾には「故に日本国中の人民此改暦を怪む人は必ず無学文盲の馬鹿者なり。これを怪しまざる者は必ず平生学問の心掛ある知者なり。」との記述がある。



セイコーミュージアム

〒131-0032 東京都墨田区東向島3-9-7
東武スカイツリーライン東向島駅より徒歩8分
◎お問い合わせ・ご予約:セイコーミュージアム
TEL:03-3610-6248
<http://museum.seiko.co.jp>

SEIKO